

Title	中国語の「我」と「你」：話し手・聞き手以外の対象を指す用法
Author(s)	杜, 天昊
Citation	大阪大学言語文化学. 2024, 33, p. 99-115
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/97282">https://doi.org/10.18910/97282</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 中国語の「我」と「你」

—話し手・聞き手以外の対象を指す用法—\*

杜 天昊\*\*

汉语中的第一人称代词“我”和第二人称代词“你”，在有些时候会指代说话人/听话人以外的人。这种用法主要出现在汉语的口语中，常在讲课或比赛解说等场合出现。本文将这种“我”和“你”的用法称作指代第三者的“我”和“你”。针对这种指代第三者的“我”和“你”，目前能够找到的先行研究并没有进行深入讨论。不仅如此，以往的关于人称代词的变异的研究大多重视说话人与听话人的关系，对人称代词用法的解释大多与交际功能相关（陈 2009），在性质上与指代第三者的“我”和“你”有较大的不同。我们认为这种用法不同于一般的人称代词变异，而是与伪实转述（管 2014）有一定的相关性，可以将其看作是存在于伪实转述中的人称代词特殊用法。转述采用了被述者的视点，因此人称代词的指示对象也相应地发生了改变。“我”会指向被述者，而“你”也改为以被述者为基准的第二人称对象。

而当文脉中存在多个潜在的被述者，即可能的视点转移对象时，说话人选择谁的视点这一问题仍没有被解答。本研究通过对收集到的例句进行考察和对比，得出了如下的结论：视点的选择与文脉中人物的共感度（久野 1978）相关，说话人会优先采用共感度较高的人物的视点。这个共感度较高的人物在视点转换时会成为“我”的指示对象。共感度的高低在大多数情况下依据“谈话主题的层级（久野 1978）”决定，但在一部分情况下，说话人自身对于事件的参与，或是主题人物的评价的高低都会对共感度的高低及视点的选择产生影响。

在第二节，本文会对汉语中的人称代词的变异用法相关的先行研究以及涉及伪实转述的相关研究进行综述，并由此得知先行研究虽然涉及了人称代词变异的用法，但在性质上与本研究的对象有所不同。而伪实转述难以解释有多个人物存在的场景下的视点变换规律。第三节中将介绍久野（1978）的视点理论。其指出视点的位置与共感度息息相关，且视点的位置不同会影响说话人的表达方式。本文认为视点的转变是“我”和“你”指示第三者的原因。说话人以其他人物的视点去看事物，并直接以那个人的口吻进行发话。第四节中，本论文讨论了在有多个存在时，“我”和“你”的指代对象如何根据共感度而改变。并探讨了可能影响共感度的要因。

---

\* 汉语中的“我”和“你”—指代说话人/听话人以外的对象的用法—（杜 天昊（TO Tennkou））

\*\* 大阪大学大学院人文学研究科博士後期課程

## 1. はじめに

中国語には、いくつかの一人称代名詞が存在する。もっともよく使われる一人称代名詞は「我」/wǒ/である。「我」/wǒ/は第一人称（話し手自身）を指すほか、他の対象を指示する用法が存在する。

- (1) 解説：A選手<sub>i</sub>继续给 B 选手施加压力，我<sub>i</sub>就是要进攻到底<sup>1</sup>。

解説者：A選手<sub>i</sub>はさらにB選手にプレッシャーをかけた、私<sub>i</sub>は攻撃し続けるつもりだ。

- (2) 解説：A選手<sub>i</sub>继续给 B選手<sub>j</sub> 施加压力，我<sub>i</sub>把棋下在这个地方，你<sub>j</sub>就无可奈何。

解説者：A選手<sub>i</sub>はさらにB選手<sub>j</sub>にプレッシャーをかけた。私<sub>i</sub>がそこにコマを動かすと、あなた<sub>j</sub>はどうしようもない。

(1) と (2) は、ある将棋の対局での解説者の発話である。一人称代名詞「我」は、話し手自身ではなく、第三者であるA選手を指示している。一見したところ、このような用法は直接話法の特徴があるように見える。しかし、文の中に直接話法を提示できる表現がなく、A選手は「私<sub>i</sub>は攻撃し続けるつもりだ」のような発話をしていない。一人称の「我」と同様に、二人称代名詞の「你」/nǐ/にも同じ用法が見られる。(2)の「你」は聞き手ではなく、B選手を指示している。ただし、ほとんどの場合「你」は単独で出現するのではなく、第三者を指す「我」と共起する傾向があり、「你」の使用頻度は「我」より低い。

本論ではこのような通常と異なる人称代名詞「我」と「你」の使い方を「第三者を指す「我」と「你」と呼ぶ。「第三者を指す「我」と「你」」は、試合の解説・授業・物語などの場面でよく見られる。また、この用法は主に話し言葉に現れ、書き言葉ではほとんど確認されない。

本論文は第三者を指す「我」と「你」の存在環境とその指示対象が変換する規則を説明することを目的としている。

人称代名詞、視点に関する先行研究を概観し、収集したビデオ・音声資料を分析し、視点変換の観点から考察を行ったうえ、本論文では以下のことを主張する。

<sup>1</sup> 本論文における例文の中で、出典が記載されていないものは筆者の作例であり、容認度の判断は筆者以外の中国語母語話者によるものである。また、日本語の訳文は筆者によるものである。例文の記号について、下線が引かれている語は人称代名詞であり、人称代名詞に続く「i」と「j」は、人称代名詞によって指示される人物が異なることを示す。同じ文字がついている人称代名詞は同一人物を指示することをあらわしている。

- (3)
- a. 第三者を指す「我」と「你」の用法は伝統的な人称の指示転換<sup>2</sup>とは性質が異なり、非事実的引用文<sup>3</sup>に存在する人称代名詞の特殊用法である。
  - b. このような用法の背後にある認知的メカニズムは視点の変換である。話し手は他の人物の視点から事態を把握し、「我」と「你」の指示対象はその人物を基準にして決められる。
  - c. 視点の変換は恣意的ではなく、話し手は優先的に文脈における共感度の高い人物の視点で事態を把握する傾向がある。既存の人物に対する共感度は、文脈上の前後関係、話し手自身の参与、既存の人物に対する評価などによって影響される。

第2節は人称の指示対象と非事実的引用文という二つの観点から先行研究を批判的に検討し、第三者を指す「我」と「你」の用法と先行研究で指摘された人称代名詞の用法との違い、そして非事実的引用文との関連付けを説明する。第3節では久野（1978）の視点（カメラ・アングル）理論の枠組みを紹介し、視点の移動と文脈上の人物に対する共感度の関連性を説明する。その後、久野（1978）を援用して第三者を指す「我」と「你」の指示対象を解釈する方法を示す。第4節では、異なる文脈条件に基づき、視点理論を運用して異なる場面での「我」と「你」の指示対象を分析する。第三者を指す「我」と「你」の指示対象の選択は視点と大きく関わっており、ほとんどの場合は久野（1978）が主張する「談話主題のハイアラーキー」に従う。その指示対象の選択は文脈に存在する人物に対する評価などの要素によって制限される。

## 2. 先行研究

第三者を指す「我」と「你」の用法に対する先行研究はほとんど確認されていない。本研究では人称の指示対象変換と引用文という二つの観点から先行研究を概観する。陳（2009）などは中国語の人称代名詞が本来の人称と異なる指示対象を指す現象を指摘したが、本研究の対象である第三者を指す「我」と「你」とは性質が異なる。一方、引用文の中の人称代名詞の指示対象も変化する。引用される人の視点では、「我」は話し手自身以外の対象を指示する現象もある。本節では人称代名詞の指示対象変換に関する先行研究と非事実的引用文に関する先行研究を概観しながら議論する。

<sup>2</sup> 人称代名詞の変異用法の一つである。その具体的な定義は2で説明する。

<sup>3</sup> 虚構の内容を引用する文である。具体的な定義と特徴は2.2.1で述べられる。

## 2.1 人称の指示転換に関する先行研究と問題点

中国語の人称代名詞が本来の人称と異なる指示対象を指す現象があることは先行研究で指摘されている。胡（1995）、王（1995）、張（2005）は中国語の人称代名詞には様々な用法が存在することを指摘した。人称代名詞の用法は文脈によって影響され、その指示対象の人称、数あるいは品詞で変わることがある。曾（2007）、陳（2001）などの研究は人称代名詞の使用は簡潔性、話し手と聞き手の間にある親疎や地位関係<sup>4</sup>によって影響されると主張している。陳（2009）は先行研究で指摘された人称代名詞の用法をまとめ、人称代名詞が通常の指示対象以外の対象を指す用法をまとめて「人称代名詞の語用変異」と呼ぶ。

(4)

- a. 人称代名詞の語用変異：人称代名詞が通常以外の人称・数を指示し、または代名詞自身の性質が変化する。人称代名詞の語用変異は文脈に依存する。文脈から離れると、その特定の文脈における人称代名詞の意味はなくなる。
- b. 人称の指示転換：人称代名詞が本来指示すべき人称以外の人称を指示する現象。  
(陳 2009: 200 筆者訳)

陳（2009）の分類の基準によると、本論文の対象である一人称代名詞「我」と二人称代名詞「你」が第三人称の対象<sup>5</sup>を指す用法は、人称の指示転換に属する。しかし、一人称・二人称単数代名詞が第三人称対象を指示する用法は陳（2009）などでは議論されていない。その上、第三者を指す「我」と「你」の用法は従来の人称の指示転換とは根本的な違いがある。

(5) 狗子<sub>i</sub>, 咱们<sub>i</sub> 说话别带脏字。

ゴウズ（人名）<sub>i</sub>, 私たち<sub>i</sub> は喋る時に汚い言葉を使うな<sup>6</sup>。(張 1982:185 筆者訳)

(6) (前略) 遥想你<sub>i</sub> 在“南边”或也已醒来, 但我想, 因为她<sub>i</sub> 明白, 一定也即睡着。  
(前略) あの頃からあなた<sub>i</sub> を思って、ひょっとして「南」で目を覚ましたかもしれないという気がしたけれど、彼女<sub>i</sub> は理解しているので、きっと寝ている。

(鲁迅给许广平的信<sup>7</sup> 筆者訳)

<sup>4</sup> 陳（2001）では、「社会関係」という用語を用いたが、人称代名詞の指示対象に関わっているのは親疎や地位の関係のみなので、本論文では代わりに「親疎や地位関係」という表現を使用する。

<sup>5</sup> 本来第三人称代名詞で指示すべき対象のことである。後文に出現する「第二人称対象」は、本来第二人称代名詞で指示すべき対象のことである。

<sup>6</sup> 例文（5）の中国語と意味的に一致する日本語の表現は「ゴウズ、俺の仲間なら、喋る時に汚い言葉を使うな」である。訳文の「私たち」は中国語の「咱们」を文字通りに翻訳したものである。これはこの「咱们」の意味が文字通りの意味と異なっていることを表すためである。

<sup>7</sup> 近代中国作家「鲁迅」が書いた手紙である。

(5) では一人称複数代名詞「咱们 /zánmen/」は「狗子」(聞き手)を指す<sup>8</sup>。陳(2009)、張(2005)によれば、「咱们」の指示対象の変換が生じる原因は、話し手が聞き手との関係を考え、親切ない方を選択しているためであるという<sup>9</sup>。(6)では、第三人称単数の「她」は聞き手を指示する。二人称代名詞の「你」の使用を回避し、代わりに第三人称代名詞を使用することによって、聞き手を事態の外に置き、直接的な表現を避けるために婉曲な表現を選択している(陳, 2009)。

すなわち陳(2009)、張(2005)では、話し手が聞き手の気持ちを考えた上、相手にとって受け入れやすい呼び方を使用することが人称代名詞の指示対象変換の根本的な理由であると考えている。

しかし、第三者を指す「我」と「你」は複数の会話参加者がいる場面では少なく、主に解説・講演などの話し手から一方向的な語りかけの場面や聞き手からの応答を求めている場面に存在する。加えその指示される人は会話の参加者ではないため、第三者を指す「我」と「你」はほとんど親疎や地位関係の影響を受けず、会話の場にはいない人物を指すこともできる。聞き手の気持ちを考える観点からの説明も援用し難い。ほかにも人称の指示転換用法が先行研究で討論されてきたが、それらの理論は第三者を指す「我」と「你」を十分に説明することが困難である。

## 2.2 引用文に関する先行研究

「我」と「你」が第三者を指示する現象はもう一つ異なる観点から考えられる。人称だけではなく、文全体の視点が変わっていることも考えられる。引用文での「我」も話し手と異なる対象を指示することがあり、「你」は会話の聞き手を指示するとは限らない。直接話法などの引用文では、話し手は自分の視点ではなく、引用される人の視点を使用する(管, 2014)。Langacker (1991)・Sanders (1996)などの先行研究によって論じられているように、直接話法の特徴をもつ引用文では、視点の変化とともに、ダイクシスの基準が変わり、人称代名詞を含む各種類の指示語に影響を与える。(7)や(8)のように、第三者を指す「我」と「你」を含む文はある程度直接話法に聞こえると母語話者から報告されている。

<sup>8</sup> ここで特に注目したいことは、「咱们」はここで単数代名詞として使われ、「inclusive we」を意味するのではない。話し手自身は指示されていない。

<sup>9</sup> 中国語の「咱们」とは、英語の「we」と違い、本来の用法では、その指示対象は必ず聞き手を含むという特徴がある。陳(2009)により、指示転換が生じる場合、「咱们」は話し手と聞き手が仲間である意味を伝達できる。話し手が聞き手のゴウズを責める時に、二人の仲間関係を「咱们」で伝達することによって、言葉の攻撃性が下がり、相手に受け入れやすくなっている。

- (7) = (2) 解説：A 選手<sub>i</sub>继续给 B 選手<sub>j</sub> 施加压力, 我<sub>i</sub> 把棋下在这个地方, 你<sub>j</sub> 就无可奈何。

解説者：A 選手<sub>i</sub> はさらに B 選手<sub>j</sub> にプレッシャーをかけた。私<sub>i</sub> がそこにコマを動かすと、あなた<sub>j</sub> はどうしようもない。

- (8) AUO<sub>i</sub> (車の名前) 最大の优势就是轻。我<sub>i</sub> 只有 600 公斤。

AUO<sub>i</sub> (車の名前) の最大の利点は軽いことです。私<sub>i</sub> はわずか 600 キロしかありません。

しかし、すでに1で述べられているように、文の中に直接話法を提示できる表現がなく、A 選手は「我<sub>i</sub> 把棋下在这个地方, 你<sub>j</sub> 就无可奈何 (私<sub>i</sub> がそこにコマを動かすと、あなた<sub>j</sub> はどうしようもない)」という発話をしていない。その上、中国語では (8) のような文が存在する。(8) はレースのファンの発話である。ここの「我」は AUO を指示する。車は無生物であり、自ら「私<sub>i</sub> は 600 キロしかありません」と発話することができないので、この部分は通常の引用であると考えることができない。

これらの文が性質的に引用文とした判定しにくいのが、引用文のように聞こえる理由は非事実的引用文に関する理論によって説明できる。

### 2.2.1 非事実的引用文

中国語において、話し手から一方向的な語りかけをする場面では、話し手が虚構の内容を引用文の形で示す現象がある。Clark & Gerrig (1990) などは非事実的引用文の理論を提唱した。すなわち引用は必ずしも元の発話内容を忠実に伝達するとは限らない。人は自分自身の思想に基づき、主観的に他人の発話を変えて引用し、虚構の言葉を引用として言うことも可能である。Mayes (1990) は引用した言葉の虚構的な側面を検証した。直接話法の形で表される発話において、かなりの部分は原文をそのまま引用したのではなく、発話者が仮想したものである。全く存在しない発話内容を直接話法の形で引用することも観察されている。

管 (2014) はこのような非事実的引用文は中国語にも存在することを確認し、虚構発話の構築方法を定義している<sup>10</sup>。本論文ではその一例を取り上げて説明する。

- (9) 汪雯：有些学生很恐怖的诶。

中には怖い生徒もいるよ。

<sup>10</sup> 管 (2014) は「可能世界」、「例の世界」、「不可能世界」の三つの虚構方法を定義しているが、その分類は本論文と直接関連しないため、説明を省略する。

然后我们同事，就是有些接到有些学生的电话说，啊你如果不给我分数加到多少分我就怎么样怎么样。

そしてね、私たちの同僚の何人かが学生から電話を受けて、もし点数をこれこれの点にまで引き上げてくれないなら、自分は何やら（おそろしいことを）するぞって言うんだって。

邢红：我就跳楼啦。

自殺するぞ。

汪雯：没有。她就说你就小心点。

いや。気をつけろって。（管 2014: 79 筆者訳）

(9) では、汪雯が邢红に一部の生徒たちの過激な行動を言っている。汪雯が電話でその学生と会話した時、邢红はその場になく、学生が何を言ったかを知ることができない。中国語例文四行目の「自殺するぞ」は、汪雯がここまで発言した内容に基づいて判断し、その学生の視点から、学生が発言可能な内容を仮想したものである。これらの虚構的な発話内容は引用文の形で表れている。第三者を指す「我」と「你」を含む文全体をこのような非事実的引用文として考えれば、その指示対象は引用される人の視点に応じて変換することも可能である。

### 2.3 先行研究の問題点と本論文の主張

陳（2009）などでは、人称代名詞が通常の指示対象以外の対象を指す用法は定義されているが、第三者を指す「我」と「你」という具体的な用法は議論されていない。他の人称の指示転換に対する説明も、第三者を指す「我」と「你」に適用できない。

管（2014）は Mayes（1990）などの先行研究に基づき、中国語での非事実的引用を検証し、虚構発話の構築方法を定義したが、それは主に典型的な引用形式<sup>11</sup>のある直接話法や間接話法を説明するのに用いられる。その上、視点の変換を伴う引用文は先行研究で討論されてきたが、多くの場合では、視点変換可能な対象は単一の人物である。文脈に多数の人物が存在する場合、どの人物に視点が置かれるかが問題になる。

本論文では、第三者を指す「我」と「你」の用法は、非事実的引用文を背景とした人称代名詞の指示対象変換であると主張する。ただし、「我」と「你」の用法の存在範囲は先行研究が定義した非事実的引用文より広く、引用形式の用いられない引用文から、引用文の形式を失ったものまでに広く見られる。このような用法が生まれる理由は視点

<sup>11</sup>「と言う」のような引用を明示するもの。



変換である。話者は語られる者の視点から思考し、その人がその場で言いそうなことを、その人（あるいは無生物）の名義で引用する。先行研究では答えられなかった視点変換の対象選択に関して、本論文では久野（1978）の視点（カメラ・アングル）理論を導入し、共感度（Empathy）の観点から視点の変換規則、およびその場の人称代名詞「我」と「你」の指示対象を分析する。

### 3. 視点理論の枠組

第三者を指す「我」と「你」を用いる時、話し手が「彼」・「A選手」といった客観的な代名詞を使わず、あえて通常と異なる一人称代名詞「我」を選択することは、話し手が主観的に視点を変えていることを示している。本論文では視点に関する理論を援用し、視点変換対象の選択規則を解明する。

#### 3.1 視点（カメラ・アングル）と共感度

久野（1978）は共感度（Empathy）の理論を提唱し、視点（カメラ・アングル）の位置は共感度の相対的な高さに関連することを主張した。

- (10) **共感度**：文中の名詞句の x 指示対象に対する話し手の自己同一視化を共感度（Empathy）と呼び、その度合、即ち共感度を  $E(x)$  で表す。共感度は、値 0（客観描写）から値 1（完全な同一視化）迄の連続体である。（久野 1978: 134）

同じ事態に対して、話し手の視点の位置が異なると、その事態を説明するのに使う表現も異なる。(11a) の視点はジョン寄りの視点であり、図 1 の (B) のところにある。一方、(11b) はメアリー寄りの視点、つまり図 1 の (C) のところである。

- (11) a. John hit Mary  $E(\text{John}) > E(\text{Mary})$   
 b. Mary was hit by John  $E(\text{Mary}) > E(\text{John})$

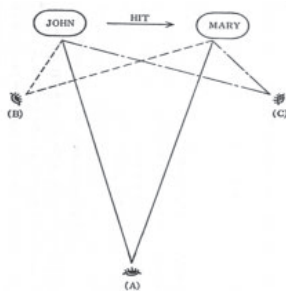


図 1 カメラ・アングル

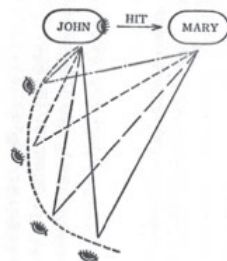


図 2 ジョン寄りのカメラ・アングル

（久野 1978:132 より一部改変）

カメラが指示対象「x」に近ければ近いほど、 $E(x)$  の値が高くなる（図2）。カメラが「x」の立場に同一化している状態は  $E(x) = 1$  である。

本論文では、久野（1978）の視点と共感度の理論は、第三者を指す「我」を説明できると主張する。話し手は文脈にある既知の人物に共感し、その人物により近い視点から事態を説明することができる。そして視点が既知の人物に非常に近い場合、話し手はあたかもその人物になったかのように、その人物の視点から直接に話すことができる。このとき、「我」はその人物から見た自分自身を指示する。

- (12) a. A選手<sub>i</sub> 继续施加压力, 他<sub>i</sub> 就是要进攻到底。  
A選手<sub>i</sub> はさらにプレッシャーをかけた、彼<sub>i</sub> は攻撃し続けるつもりだ。
- b. A選手<sub>i</sub> 继续施加压力, 我<sub>i</sub> 就是要进攻到底。  
A選手<sub>i</sub> はさらにプレッシャーをかけた、私<sub>i</sub> は攻撃し続けるつもりだ。
- (13) a. AUO<sub>i</sub> 最大的优势就是轻。 它<sub>i</sub> 只有 600 公斤。  
AUO<sub>i</sub> の最大の利点は軽さです。 それ<sub>i</sub> は 600 キロしかありません。
- b. AUO<sub>i</sub> 最大的优势就是轻。 我<sub>i</sub> 只有 600 公斤。  
AUO<sub>i</sub> の最大の利点は軽さです。 私<sub>i</sub> は 600 キロしかありません。

(12a) と (13a) では、三人称代名詞が用いられ、視点は客観的な視点であるのに対し、(12b) と (13b) は「A選手」、「AUO」よりの視点である。すなわち  $E(A選手) \cdot E(AUO) = 1$  となる。(12b) での「我」は前の文の A選手を指示する。(13b) では、主語の「AUO」は車種を表す。話し手は AUO に視点を埋め込み、まるで自分が車になっているかのように、AUO の長所を説明している。文脈に出現している対象への話し手の共感度が高く、視点をその共感度の高い対象に近づけることが容易である。視点を変換されることによって、一人称代名詞の「我」がそれぞれ「AUO」、「A選手」を指示することになっている。

### 3.2 共感度のハイアラキー

視点（カメラ・アングル）の移動する位置は恣意的ではない。異なる人物に対する共感度の高さが異なり、視点はより共感度の高い対象に移動する傾向がある。共感度の高さと視点の関係について、久野（1978）は以下の規則を提案している。

- (14) **談話主題の視点ハイアラキー**：談話に既に登場している人物に視点を近づける方が、談話に新しく登場する人物に視点を近づけるより容易である。

E (談話主題) ≥ E (新登場人物) (久野 1978: 148-149)

(15) a. 太郎は誰かに話しかけられた。

b.\* 誰かが太郎に話しかけられた<sup>12</sup>。(久野 1978: 148)

(15a) では、「太郎」はすでに登場している人物であり、共感性が高い。それに対し、新しく登場している「誰か」への共感性が低い。(15b) では、視点は共感性のより低い人物「誰か」に近き、視点と共感性が矛盾しているため、文は不自然である。

#### 4. 視点と「我」と「你」の指示対象

視点の変換は文脈に存在する人物への共感性によって影響され、「我」と「你」の指示対象を決める。本論文は「談話主題の視点ハイアラーク」を援用し、異なる場面での「我」と「你」の指示対象選択規則を解明する。本論文は第三者を指す「我」と「你」が出現する文を分類して説明していく。「你」だけ現れる文は本論文では議論しない。「你」だけ表れ、かつ指示対象の変化が生じる場合、その指示対象の変換はいくつかの可能性が存在する。特にその中、一般的な人を指示する「你的泛指<sup>13</sup>」の用法は本研究の対象である第三者を指す「你」の用法に似たような特徴があり、両者を区別して議論する必要がある。その区別方法や説明は複雑であるため、この部分の説明は、また別稿に譲る。

##### 4.1 「我」と「你」の指示対象選択

###### 4.1.1 「我」だけの時

ある発話の視点は前後の文脈内に出現する対象と密接に関連付けられる。この場合、第三者を指す「我」は先行する節にすでに出現した人物を指す傾向がある。

(16) = (2) A 選手<sub>i</sub> 继续给 B 選手<sub>j</sub> 施加压力, 我<sub>i</sub> 就是要进攻到底。

A 選手<sub>i</sub> はさらに B 選手<sub>j</sub> にプレッシャーをかけた、私<sub>i</sub> は攻撃し続けるつもりだ。

(17) ?A 選手<sub>i</sub> 继续给 B 選手<sub>j</sub> 施加压力, 我<sub>i</sub> 快要撑不住了。

?A 選手<sub>i</sub> はさらに B 選手<sub>j</sub> にプレッシャーをかけた、私<sub>i</sub> はもう耐えられない。

前の文脈に多数の対象が存在する場合、「我」は先行する節において先に出現する対象を指示する傾向がある。(16) では、先行する節に「A 選手」と「B 選手」の二つの

<sup>12</sup> (15b) の容認度判断と「\*」の記号は久野 (1978) によるものである。

<sup>13</sup> 陳 (2009) では特定の対象を指示しない「你」の用法を「你的泛指」と呼ぶ。

人物が存在する時、後続節の「我」は「A選手」を指示対象とする。このような現象は3節で取り上げた久野(1978)の談話主題の視点ハイアラーキーを用いて説明できる。「A選手」は先に文脈に出現し、談話の主題になっているため、新しい人物「B選手」よりも視点を近づけやすい ( $E(A選手) > E(B選手)$ )。(17)のようにあえて「我」を用いて「B選手」の行動について言及しても、聞き手は「我」が「B選手」を指示しているとは思わない。聞き手は「我」の対象はA選手であると解釈し、A選手が自分自身の攻撃によって耐えられなくなるという不自然な意味になる。

#### 4.1.2 「我」と「你」が共起する時（「我」が先行する）

「我」と「你」の両者が共起し、それぞれ前文脈の三人称対象を指示することもある。(18)では、視点は完全に「A選手」に埋め込まれているので、この文脈で選手から見た第二人称対象は「B選手」である。(19)の背景知識を説明すると、バスケットボールチームのキャプテンであるカーリーが怪我で休み、補欠選手だった新入りのメンバーのプールの代わりに先発し、大活躍した。カーリーは病気から復帰した後、しばらくの間プールの補欠選手になり、プールの鍛錬させ続けた。

(18) A選手<sub>i</sub> 继续给 B選手<sub>j</sub> 施加压力, 我<sub>i</sub> 把棋下在这个地方, 你<sub>j</sub> 就无可奈何。

A選手<sub>i</sub> はさらに B選手<sub>j</sub> にプレッシャーをかけた、私<sub>i</sub> がそこに駒を動かすと、あなた<sub>j</sub> はどうしようもない。

(19) 库里<sub>i</sub> 其实已经是提前 (给 普尔<sub>j</sub>) 做了表率了。 你<sub>j</sub> 打的好, 我<sub>i</sub> 刚回来, 那么 我<sub>i</sub> 给你<sub>j</sub> 打替补。(比不中说篮球<sup>14</sup>)

カーリー<sub>i</sub> は事前に (プール<sub>j</sub> に) 模範を示した<sup>15</sup>。あなた<sub>j</sub> のプレイが好調だし、私<sub>i</sub> は戻ってきたばかりなので、私<sub>i</sub> はあなた<sub>j</sub> の補欠選手になる。

(19)では、談話の主題人物であるカーリーが最初に登場し、プールが後から登場する。先に出現したカーリーに対する共感度は高く、久野の談話主題の視点ハイアラーキー理論によると、 $E(カーリー) > E(プール)$  であるので、視点が変わるとき、優先的にプールではなく共感度の高いカーリーが視点人物として選ばれる。これに対し、(20)では「我」と「你」を入れ替え、「我」は共感度のより低いプールを指示するようになっている。(21)はプールとカーリーの登場する順番を入れ替えたものである。プールがより先に出現するようになっているので、 $E(プール) > E(カーリー)$  である。

<sup>14</sup> 個人経営の「Bilibili」体育チャンネルである。

<sup>15</sup> この文脈での「模範を示した」というのは、謙譲な態度を示すことである。

(20) ?库里<sub>i</sub> 其实已经是提前 (给普尔<sub>j</sub>) 做了表率了。我<sub>j</sub> 打的好, 你<sub>i</sub> 刚回来, 那么你<sub>i</sub> 给我<sub>j</sub> 打替补。

?カリー<sub>i</sub> は事前に (プール<sub>j</sub> に) 模範を示した。私<sub>j</sub> のプレイが好調だし、あなた<sub>i</sub> は戻ってきたばかりなので、あなた<sub>i</sub> は私<sub>j</sub> の補欠選手になる。

(21) ?普尔<sub>i</sub> 其实已经提前被 (库里<sub>j</sub>) 做了表率了。你<sub>i</sub> 打的好, 我<sub>j</sub> 刚回来, 那么我<sub>j</sub> 给你<sub>i</sub> 打替补。

?プール<sub>i</sub> は事前に (カリー<sub>j</sub> に) 模範を示した。あなた<sub>i</sub> のプレイが好調だし、私<sub>j</sub> は戻ってきたばかりなので、私<sub>j</sub> はあなた<sub>i</sub> の補欠選手になる。

(20) のように「我」と「你」を入れ替え、意図的に「你」を使って共感度の高いカリーを指し、共感度の低いプールを指すために「我」を使うと、文の意味は不自然になる。同様に、(21) のように後半部をそのままにして、最初の文を能動態から受動態に変更し、プールが先に出現して主語になると、その文も不適格になる。視点が変わるとき、「我」は常に前の文での共感度がより高い人物を指示する。

#### 4.1.3 「你」が先行する時

ここまでの例文では、視点の変換は二番目の節で行われ、「我」は主題となっている人物と異なる節にある。しかし、「你」が目的語として主題人物と同じ節に出現する文もある。すなわち、「我」だけが出現する場合、少なくとも二つの節が必要であるが、「你」が用いられる場合、一つ目の節の中で視点を変換することができる。この場合、「你」の指示対象は前の文脈に存在するか、あるいは話し手と聞き手が共同注意<sup>16</sup>している現場の対象である。(22) は、バスケットボールチームのコーチに対する評論家のコメントである。チームのボスは大金を支払って良いコーチを雇用し、大会の優勝を目指している。この場合、「你」の対象となるコーチはすでにその前の文脈に出現している。「チームのボス」は客観的な指示であるが、「你」が出現する時、視点の変換はすでに完了している。(23) では、解説者は試合の状況をリアルタイムで説明している。「A 選手」と「B 選手」は対面で座っているので、「你」の指示対象は「A 選手」の対面にいる「B 選手」と判断できる。

(22) 球队老板<sub>i</sub> 雇你<sub>j</sub> 来当教练, 就是要你<sub>j</sub> 给我<sub>i</sub> 带来一座冠军。

チームのボス<sub>i</sub> が あなた<sub>j</sub> をコーチとして雇うのは、あなた<sub>j</sub> が 私<sub>i</sub> にチャンピ

<sup>16</sup> 共同注意とは、自分の注意の所在を他者に理解させ、自分の態度を他者に理解させる行動である。Tomasello (1996) はそれを「joint action」と呼ぶ。

オンを持ってくる（優勝する）ことを望んでいるからだ。

- (23) A選手<sub>i</sub> 就是在打你<sub>j</sub> 的弱点, 你<sub>j</sub> 要是防不住我<sub>i</sub> 就赢了。  
A選手<sub>i</sub> はあなた<sub>j</sub> の弱点を攻撃している、あなた<sub>j</sub> が防御できなければ私<sub>i</sub> の勝ちだ。
- (24) ?A選手<sub>i</sub> 就是在打你<sub>j</sub> 的弱点, 我<sub>i</sub> 要是防不住你<sub>j</sub> 就赢了。  
?A選手<sub>i</sub> はあなた<sub>j</sub> の弱点を攻撃している、私<sub>i</sub> が防御できなければあなた<sub>j</sub> の勝ちだ。

(23) と (24) の違いは、視点の位置と視線の方向である。(23) では最初の節で視点が決められている。視点は A 選手に設定され、視線は A 選手から始まり、相手まで届く。したがって、後続節の「我」は視点人物としての A 選手を指し、「你」は相手の B 選手を指す。それに対し (24) では、同じく A 選手から B 選手までの視線が設定されているが、後続節では逆に「你」を使って A 選手を指し、「我」を使って B 選手を指している。視点が矛盾しているため、文は不自然に聞こえる。第三者を指す「我」と「你」の使用は視線の方向と一致しなければならない。一度視点が変換すると、同じ文で視点を変えることは二度とできない。

## 4.2 視点変換の制限

### 4.2.1 発話当事者と視点

視点はどんな時にも変換できるとは言い切れない。久野 (1978) は発話当事者の視点ハイアラキーを主張している。発話者自身が当事者である場合、発話者は自分ではなく、自分以外の他の人物の視点をとることは不可能である。

- (25) **発話当事者の視点ハイアラキー**：話し手は常に自分の視点をとらなければならない、自分より他人寄りの視点をとることができない。  
 $1 = E$  (一人称) >  $E$  (二・三人称) (久野 1978: 146)
- (26) ??Then, John was hit by me.  
?? その時、太郎が僕に殴られた<sup>17</sup>。(久野 1978: 146)
- (27) ?A選手<sub>i</sub> 继续施加压力, 我<sub>i</sub> 把棋下在这个地方, 你<sub>j</sub> 就无可奈何。  
?A選手<sub>i</sub> はさらにプレッシャーをかけた、私<sub>i</sub> がそこに駒を動かすと、あなた<sub>j</sub> はどうしようもない。(A 選手の相手が話し手である場合)

<sup>17</sup> (26) の容認性判断及び説明は久野 (1978) によるものである。

(26) の二つの文が不自然な文になる原因は、「僕」・「me」のような共感度がより高い人物が存在するにもかかわらず、あえて「John」・「太郎」よりの視点を選択し、それらを受身文の主語にしているからである。

本論文の研究対象である第三者を指す「我」と「你」もこの規則に従う。(27) では、話し手は自分自身と A 選手の試合を説明している。自分がイベントの参加者である時、「我」を使用して自分以外の人を指し、「你」を使用して自分自身を指す文は不自然である。

#### 4.2.2 主題人物に対する評価と視点

文脈に先に現れ、主題になっている人物は一般的に共感度が高いが、それは絶対的ではない。主題になった人物の行動、あるいはその人自身の評価が低いとき、話し手はその人に共感することが困難であり、視点の選択傾向が変わることもある。(28) では、先行する文脈において張三が主題人物になっている。視点が変わるとき、一人称の「我」が張三を指すことが想定されるが、実際の文では張三は二人称の「你」で指示され、「我」の指示対象は張三に騙された人になっている。文を書き換え、(29) のように「我」を使用して張三を指示すると、視点は詐欺する者の位置へ変換しているので、文の容認度が下がる。

- (28) 张三<sub>i</sub> 这种行为不构成诈骗？什么是诈骗？诈骗就是我（被骗）主动把钱给你<sub>i</sub>。  
张三<sub>i</sub> の行為は詐欺にあたるのか？詐欺とは何？詐欺というのは、私 が（騙され）自らお金を あなた<sub>i</sub> に渡すことだ。（厚大教育）
- (29) ? 张三<sub>i</sub> 这种行为不构成诈骗？什么是诈骗？诈骗就是我<sub>i</sub> 让你主动把钱给我<sub>i</sub>。  
 ? 张三<sub>i</sub> の行為は詐欺にあたるのか？詐欺とは何？詐欺というのは、私<sub>i</sub> が あなた<sub>i</sub> にお金を自ら 私<sub>i</sub> に渡させることだ。

後半部の直接話法のように見える文は「詐欺」と言う概念と騙された人の一般的な心理状態を説明するために仮想したものである。Berry (2009) は、行為自体の評価が行為の共感<sup>18</sup>の度合に影響を与えることを指摘した。ある行為が否定的に評価されると、聞き手はその動作主に共感するのが難しくなる。ある行為の評価が肯定的である場合、聞き手はその動作主に共感することが容易である。

<sup>18</sup> Berry (2009) では「be involved」という言い方をしている。

### 4.3 まとめ

第三者を指す「我」と「你」の用法は視点の変換と関わっている。談話主題のハイアラーキーにより、「我」は先行文脈に先に出現する人物（多くの場合、それは先行する文の主題になっている人物）を指す傾向がある。「你」の指示対象はその人物にとっての第二人称対象である。

視点変換には制限が存在する。発話者自身が当事者である場合、発話者は自分以外の人の視点をとることは不可能であり、「我」で自分自身以外の対象を指すことができない。また、主題になっている人物に対する評価が低いとき、共感度が下がり、話し手は評価の低い人の視点から事態を捉えることに抵抗を感じる。

## 5. おわりに

本論文は、第三者を指す「我」と「你」の存在を指摘し、それは非事実的引用文で使われる人称代名詞の特殊用法であると判断した。この現象の背後にある認知的メカニズムは視点の変換である。話し手は視点をほかの人・物に埋め込み、その人の立場から出来事を把握して述べる。「我」と「你」の指示対象は視点変換先の人物を基準にして変化する。

視点の移動は恣意的ではない。既存の人物に対する共感度は、文脈上の前後関係などによって影響され、話し手は共感度の高い人物の視点をとる傾向がある。「我」は視点変換先の人物を指し、「你」はその人物にとっての第二人称対象を指す。文脈に登場する人物への共感度は、基本的に談話主題のハイアラーキーによって決められるが、話し手自身の関与、または主題人物への評価によって影響される。

以上の結論から、中国語の人称代名詞「我」と「你」の特殊な性質が見られる。それらの指示対象は話し手自身を基準にしたダイクシスによって決められるとは限らない。日本語や英語の人称代名詞は話し手自身の視点と強く結びついている。「I」や「私」を言う時、直接話法であることが明示されていない以上、それは基本的に話し手自身を指示する。しかし中国語では、このような視点の変換による人称代名詞の指示対象変換は予告なく起き得る。そこから中国語の視点変換の柔軟性が見られる。「我」と「你」は視点変換による特殊用法の全てではなく、その全体像の一角に過ぎない可能性がある<sup>19</sup>。人称代名詞という部分から出発し、視点変換の柔軟性がある理由と今まで議論さ

<sup>19</sup> 以下の例文では、話し手（個人経営の「Bilibili」新聞チャンネル）は、芸能人の不正行為によって被害を受けた会社について話している。

对产品方<sub>i</sub>来说,那些广告都拍完了。但是我<sub>j</sub>广告突然要(被)下架,这是有经济损失的,必须索赔。(东京大明白)

投资者<sub>i</sub>から見れば、撮影が終了しているのに、私<sub>j</sub>のCMがいきなり撤去され、経済的損失が発生した。損害賠償を請求しなければならない。



れていない中国語の視点変換規則の全体像が見えてくる。

また、今回の論文では扱いきれなかった課題がある。4で論じられた「我」と「你」は、二つ以上の並列関係にある文に存在するものであるが、従属文の中にも、特に関係節のなかに、第三者を指す「我」と「你」はしばしば見られる。その時、「我」と「你」の指示対象変換は従属節に生じ、その指示対象が主節の人物であることが多い。しかし、このような用法の容認性は複文の種類、文の長さなどの要素に影響され、第三者を指す「我」と「你」が従属節で用いられる条件が判明するには、より細かい議論が必要とされている。この部分議論は、今後の研究課題に譲る。

### 参考文献

- 陈（陳）翠珠（2009）『汉语人称代词考论』华中师范大学语言研究所博士论文。
- 陈（陳）辉、陈（陳）国华（2001）「人称指示视点的选择及其语用原则」『当代语言学』第三卷, 175-186.
- 管 玮（2014）汉语自然会话中的转述现象研究 .Doctoral dissertation, 浙江大学.
- 胡 树裕（1995）『现代汉语』上海：上海教育出版社.
- 王 桂安（1995）「论人称代词活用」『华南师范大学学报』（社科版）第2期, 82-86.
- 曾 卫军（2007）「人称代词的虚化及其语法化解释」『湖南城市学院学报』第2期, 81-83.
- 赵（趙）秀凤（2009）语篇视角语言表征的认知研究：指称在意识流语篇中的视角标记作  
北京：科学出版社.
- 张（張）春泉（2005）「第一人称代词的虚指及其心里动因」『浙江大学学报』第35卷, 106-112.
- 张（張）炼强（1982）「人称代词的变换」『中国语文』1982年第3期, 42-49.
- 久野 暉（1978）『談話の文法』大修館書店.
- Berry, R. (2009). You could say that the generic second-person pronoun in modern English. *English Today*, 25 (03), 29-34.
- Clark, H., & Gerrig, R. (1990). Quotations as Demonstrations. *Language*, 66, 764-805.
- Langacker, Ronald. W. (1991) *Foundations of cognitive grammar*. Vol. 2. Stanford Univ. Press.
- Mayes, P.M (1990). Quotation in Spoken English. *Studies in Language*, 14 (2), 325-363.

---

この文では、人称代名詞の「我」だけではなく、視点はモダリティに関する表現に影響している。「必須索賠」という意志を表す表現があるが、発話する時点で、賠償の請求はすでに行なっている。この視点は時間に関連づけられている。話し手はCMが撤去されることを聞いた時点の投資者の心理活動を想像し、賠償を要求する意志を表した。他にも、第三者を指す「我」と「你」を共起する文法形式が視点の変換に影響されることが観察されている。

Sanders, J. (1996). Perspective and attribution: The cognitive representation of biblical narrative. *Poetics*, 24 (1), 57-80.

Tomasello Michael (1996). *The Cultural Origins of Human Cognition*. Harvard University Press.

